

FINANCIAL REPORTING FLASH REPORT

FASB が US GAAP の成文化に移行

迅速な対応を行うことにより、今後、会計問題のより適切な調査と解決が可能となる

June 3, 2009

本日、FASB は正式に「FASB 会計基準(成文化版) (FASB Accounting Standards Codification™)」は US GAAP (米国の一般に公正妥当と認められた会計原則)として公式に認められた唯一の指針となることを発表した。また、「FASB 会計基準(成文化版)」は 2009 年9月15日以降の期中、期末より有効となることを取り決めた。つまり、年度末が 12 月 31 日の会社は、第 3 四半期(2009 年9月 30 日)の期中財務諸表より「FASB 会計基準(成文化版)」の採用を開始することになる。

故に、2009 年 9 月 15 日以降に終了する期中、期末に関して及びそれ以降は、SEC(米国証券取引委員会)より発行された指針以外は、当該「FASB 会計基準(成文化版)」が唯一の権威ある GAAP の指針となる。今後、会計基準を参照する際に「FASB 会計基準(成文化版)」が、既存の FASB 基準書とその解釈指針、EITF、AICPA(米国公認会計士協会)による SOP、やその他の文献に取って代わることとなる。「FASB 会計基準(成文化版)」の目的は会計基準の内容を変える事ではなく、効力を有する公式の会計基準を一元化することにより、財務報告作成者や外部アドバイザーによる企業の会計関連の諸問題の解決を容易にすることである。現在の多種多様な US GAAP に関連する基準、意見及び各種変更等を会計項目ごとに再編成し、関連する SEC のガイダンスも含める予定である。

この変更により、どのような影響が予測されるか？ US GAAP に基づく財務諸表発行者やその監査人は、旧来の基準ではなく、新しい「FASB 会計基準(成文化版)」に基づいた GAAP を参照することが求められる。一見すると重大なこととは見受けられないが、財務諸表発行者および監査人は、オンラインでの「FASB 会計基準(成文化版)」の検索や、関連基準の引用の方法等を学ぶ必要がある。「FASB 会計基準(成文化版)」により会計基準の把握方法が変わり、過去の財務諸表での会計基準の適用誤りが判明し、将来のみならず過去の財務諸表までも影響を及ぼすことも考えられる。上記のように、理論的には既に報告した財務諸表に影響をおよぼす可能性はあるが、現時点では、重要な争点や影響を受ける領域・論点の具体例等は含まれていないと考えられている。

「FASB 会計基準(成文化版)」による(会計基準の体系)の変更は、現在の検索ツール等の技術で特段の問題は生じないと考えられる。但し、会計基準の体系化に伴い、次の 2 段階の対応が求められると考えられる。最初に財務諸表に係わる会計方針および手続を、古い基準から新しく成分化された GAAP の引用に移す“プロジェクト”が有る。次に今まで未解決であった会計論点、または新たな論点に関する調査を行なう“プロセス”が伴う。最近行なわれた調査からも「FASB 会計基準(成文化版)」を知らない実務家が多数いるため、この会計基準に関連す

る変化を意識することが重要である。よって各企業は、新たな FASB 会計基準(成文化版)に対応した自社の会計マニュアル等の更新を行い、過去または間違った基準の参照を回避することが求められる。これにより、会計基準等の調査等に関連する経理部員の能力を原因とする「財務報告に係わる内部統制の不備」を回避することができる。また、国際的な会計事務所で作成され、実務で用いられている既存の会計基準の各種ガイダンスは、単にその参照する基準が影響を受けるのみであり、この成分化による会計基準の新たな構造により代替されることは無いと考えられる。そのため、企業にとって会計関連の外部アドバイザーや監査人と意見交換を行い、協調関係を持つことが重要となる。

「FASB 会計基準(成文化版)」に関する追加情報、オンラインでの無料チュートリアル、ウェブキャスト、「FASB 会計基準(成文化版)」Q&A や会計基準のウェブサイトへのリンクは <http://www.fasb.org> で得られる。